

年に於ける海水の一部遺留せるものなりと暫く記して疑を存す。

天山北路にては、小大の湖澤數多ありと雖も、未だ其の狀況を詳にするもの少く又南路は其の地の廣大なるに較ぶれば、湖澤甚だ多からず。其中最も大なるを羅布淖爾とす。而して北路には葦湖と稱して、葦蘆密生の沼澤地あり。其の面積廣大なるも未だ探檢者あつて之を世に示したる者あるを見ず。因て此には其の梗概を記すに止まるを遺憾とす。

一 天山南路の湖沼

巴格喇赤庫里湖は一名博斯騰淖爾、蒙古人は之を騰吉斯と稱す。喀喇沙爾の南方に在りて、其の廣袤を詳かにせざるも、東西に狹長二十餘里、其幅約五里ありと云ふ。天山南麓より發源する諸川合流して開都河と爲るもの、滔々同湖に直瀉するに因り、頗る水量に富み、而も淡水湖なるが故に、魚類及水禽多し。湖畔は一帶蘆葦の沼澤を以て充たされ、一見湖水を包擁せるもの、如し。秋色深き時、蘆花雪を欺き、水禽相呼ぶの狀、又掬すべきの閑況なきに非らずと雖も、雄大なる光景は、坐るに人をして荒涼の感に堪へざらしむるもの有らん。盖し同湖は、更に其の西南口よ